

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成27年5月25日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677100168
法人名	有限会社 健やかクラブ
事業所名	グループホーム元気
所在地	鹿児島県鹿屋市串良町細山田5340-2 (電話) 0994-31-0161
自己評価作成日	平成27年3月5日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂54番15号
訪問調査日	平成27年3月24日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・社会福祉士を中心に相談業務や3人の介護福祉士を中心に介護の勉強会や歯科衛生士の指導のもと、個々の食後の口腔ケアがしっかりと対応できている。

・広い敷地を利用して利用者と共に家庭菜園を作り、草取りから収穫など共働している。さらに収穫した野菜等は料理に活用している。園芸療法も取り入れ種まきから育苗まで花づくり等にいそしんでいる。更に地域の方々にもお裾わけが出来喜んでいただいている。

・個々の生活レベルに焦点を置き、強制することが無いようにし我が家のごとくゆっくりと生活できている。

○ホームは市中心地から10キロほど離れた農村地帯に建てられ、周囲は自然豊かで閑静な環境である。開設以来日常的に来訪者があり、農作物や手・工芸品を頂いたり、地域のイベントへの積極的な参加やホームの行事に家族や地域住民、ボランティアの人々に参加して頂くなど、地域との円滑な交流がなされている。

○ホームの敷地は広く日当たりも良く、多くの花木が植えられ四季を感じながら散歩や日光浴、菜園の手入れ等が安全に楽しめる環境となっている。またホームは木造平屋の落ち着いた雰囲気、天窓と広い窓により明るく清潔感に溢れており、広いリビング中央部に設置されたキッチンからは、調理しながら利用者との対話や見守りが出来る構造になっている。共有部分及び居室共に余裕があり、衛生面に配慮して整理整頓されており、空調、採光、防臭等にも十分配慮されており、利用者は自由で平穏な日々を過ごしている。

○管理者及び職員は、理念に沿って利用者の人格や誇りを大切にしながら思いや意向の把握に努め、利用者が地域の中で安らかに、その人らしく生きるために誠心誠意、ケアに努めている。

○管理者は、職員間の協力体制及び利用者・家族との信頼関係の確立が何よりサービス向上に繋がると認識しており、日頃から要望や意見等の把握に努め、課題の大小に関わらず誠意をもって対処しており、職員及び家族等は自由に意見や要望等を気軽に述べたり協議できる体制が構築されている。

○管理者は、職員のスキルアップにも熱心に取り組んでおり、ホーム内の研修を計画的に実施すると共に、外部研修にも全職員が意欲的に参加している。また、職員の資格取得や技術修得も積極的にバックアップしており、信頼と協力体制を構築した働きやすい職場環境づくりに努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時の際、職員で唱和し業務に従事している。月1回の職員会議でも理念の再確認をしている。	利用者の気持ちを大切にケアを目標とした理念を開設時に作成し、利用者個々の状況を見極めながら最善のケアになるように努めている。理念は玄関、事務室、台所に掲示して申し送り時に唱和し、日々のケアの中や職員会議で振り返り認識を深めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ホームでの模様し物の時は、招待状を配り参加を呼びかている。町内会の夏祭りや敬老会等招待を受け参加している。また、節分の日などは手巻きすし等近隣にお裾わけしている。	地域で開催の夏祭りや敬老会には招待もあり積極的に参加し、ホームの敬老会や花見、クリスマス会、夏祭り等の行事には家族や地域の人に参加を呼びかている。日常的に散歩や買い物に出かけ地域の人と話し、野菜や果物、手作りの手工芸品等を頂く間柄ができています。家族や友人の来訪も日常的にあり、歌や手品のボランティアも積極的に受け入れて利用者は交流を楽しんでいる。また、地域に貢献する意味で、「子ども110番」「救急救命士」の事業所として協力の体制を整えている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	近隣住民の方々がいつでも立ち寄れるよう、普段から声かけしている。又、子供110番の委嘱も受け地域貢献に寄与している。更に、市民救命士のいる事務所の認定を受けた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し、サービスの状況報告し、会合での意見等参考にしサービスの向上に生かしている。	会議は家族や地域住民、民生委員、行政、消防署、駐在所（夫婦）の参加を得て定期的に開催されている。利用者の現況や行事・問題点への取り組み状況、外部評価の結果等の報告がなされ、駐在所職員による「おれおれ詐欺」の研修や、委員から地域の情報や防災に関する意見も出されている。内容は議事録で共有を図り、日々のサービス向上に活かされている。また、会議の後で防災訓練や家族会を計画したり、アジア太平洋農村センターで会議を開催するなどの工夫で多数の参加を促し活性化を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長及び管理者を始め事務長が行政に出向いたり、メール及び電話での連絡等情報交換を行い、サービスの取り組みに努めている。又運営推進会議にも参加して頂き意見を聞いている。	市担当者には運営推進会議に出席して頂くとともに、市担当窓口や包括支援センターと諸手続き等の際に訪問や電話により、運営や利用者のケアについて相談や協議を行い、情報や助言を頂くなどの連携を図ってサービス向上に取り組んでいる。また、市が主催する連絡協議会や研修等にも参加して情報や意見の交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊が出て直ぐに対応できるように玄関等にチャイムをつけた。身体拘束をしないように目配り気配りを行っている。やむを得ず拘束しなければならない状況が発生した時は、必ず身体拘束廃止委員会を開催し、経過記録を記入し家族の同意を得ている。	居室や玄関等の施錠は行わないケアに取り組んでおり、認知症ケアや虐待防止・身体拘束等に関するマニュアルを整備して研修も行い、言葉による拘束も含めて認識を深め、安全を確保してその人らしい暮らしの支援に努めている。外出しそうな利用者には、職員が寄り添って対話や散歩を行い安定を図っている。また、近隣の方々とも見守りや声かけをしてもらえる関係が築かれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市単位の研修会及びグループホーム協議会等の研修会に職員が交代で参加し、職員会で研修報告し全員が共有できるようにしている。又、職員会で勉強会をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市町村単位の研修会や事業所内研修で学びながら、研修参加者の報告会を開催し情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明時に文書を持って運営理念や介護方針等丁寧に説明をしている。退去時は各機関と連携し家族の方が安心できる体制をつくっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口相談を設置している。いつでも対応できるように体制をとっている。	利用者の思いや意見は日常の会話や表情等で、また家族の意見や要望等は運営推進会議や来訪時の対話、家族会を通じて把握に努めている。職員は運営推進会議事録や家族会の記録等で内容の共有を図り、職員会議や申し送りで対応を話し合っケアへ反映させており、結果は家族にも適切に報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回もしくは不定期に開かれる職員会議の中で意見等を聞き運営に反映している。又、申し送り帳を活用している。	管理者は日頃より話しやすい雰囲気作りを工夫して、日々の申し送りやケアの中で、また毎月の職員会議や必要に応じての個人面接で意見や提案を聞き取り把握に努めている。ケアや業務の改善に向けた意見や提案は、職員会議や申し送りで話し合っサービスの向上に反映させるなど、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。職員の資格取得やスキルアップについても積極的にバックアップして意欲の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を多く取り入れ、休暇等も要望に沿っている。更に介護職員処遇改善交付金を利用し各手当や賃金のアップ等を計りながら、働きやすい環境をつくっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修への参加、内部研修への参加の中、個々のレベルアップに努めている。又、個々の相談にも応じながら各自の向上にも努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会主催の研修会で相互間の意見交換等を実施しながら、各自のサービスの向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の面接時、優しい言葉遣いと態度で接し、不安感を与えないようにしている。出来る限り本人の要望を受け入れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に安心感を与える為に丁寧な言葉使いと優しい態度で接し、安心してご家族を入所できるように心掛けている。ご家族の要望も受けいられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及びご家族の生活歴等の情報を収集し、他の関係機関との連携を図ってサービス利用に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重し、強制することなく、コミュニケーションを心がけ、趣味やレク・洗濯物の整理や台ふき等共に生活する者として協力し助け合うことに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お盆や正月などの一時帰宅や外泊を負担のない限り協力をいただいている。外出や通院なども協力をいただきながらホームの行事等にも参加頂き、ホーム便り等も送付している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会や外出、外泊できるように開放している。	利用前に本人や家族、関係機関から、生活歴、病歴、家庭環境、地域の人との交流状況、趣味、嗜好等の聞き取りを行い、記録に整理して共有している。本人の希望に沿って行事への参加や買い物、墓参、一時帰宅等、馴染みの人や場との関係が途切れないように家族と連携して支援して業務日誌に残している。遠方のご家族とは電話や手紙の取り次ぎにより関係性の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に洗濯物を干したり・畳んだり、レクに参加をしたりしながら、歩行の可能な方は車いすを押し運動したりしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもご家族への電話や暑中見舞いや年賀状などこまめに連絡を取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のコミュニケーションの中やご家族からの情報などで希望することなどを聞いている。 (買い物・食べたいもの・したいことなど)	利用開始時の聞き取りや日頃の利用者及び家族との関わりを通じて思いや希望をくみ取り、個人の経過記録や業務日誌で共有を図っている。対応については申し送りや職員会議で十分話し合い、一時帰宅や墓参り等は家族とも相談しながら、利用者の気持ちを大切にしていより良い支援となるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報をもとにして、入所するまでの生活歴を重視して、ケアカンファレンスを開催して、サービス利用の経過に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録や申し送り帳に記入している。毎月の職員会議や緊急のミーティング開催している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントに基づいて具体的にケアプランを作成している。必要に応じてスタッフ会を開催しより良いケアができるようにしている。	介護計画は、利用者本人、家族の意向や希望及び医師を始めとした関係者からの情報を基に、職員全員で意見交換して、利用者本位のきめ細かなものを作成している。計画には各利用者の課題と改善目標等を明確にし、ケアの方法や受診状況等も詳しく記載されており、入院など利用者の状況変化に対しても、実態に即した介護計画の見直しや修正が適切に行われている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人個人の介護記録を毎日記入し、更に申し送り帳を利用してスタッフ全員が情報を共有できるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人及び御家族の希望や要望を受け入れてホームの特性を生かし1人1人が自然な形で持っている力を発揮して生活できるように支援している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域のボランティアの方々が手品や舞踊・三線演奏など来ていただき楽しみながら生活できている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>緊急時を含む24時間体制で医療連携が確保されており、月2回のDrの往診と訪問看護を利用し適切な医療受診を支援している。</p>	<p>利用前の病歴や受診経過は十分把握して本人・家族が希望する医療機関での受診を支援している。通院は基本的には家族同行だが、状況によっては職員が対応し、利用者のバイタル等を記入した「総合支援計画表」で医師との連携に努めている。週1回の訪問看護と協力医療機関の往診も随時行われており、結果は電話で家族にも伝えて情報を共有している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎日のバイタルチェックや介護記録をもとに、異常があればその都度Dr又は看護婦の指示を仰ぐ、必要があれば往診や受診をしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>連携医療機関を確保しMSWと連絡を計りその状況を聞いている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>連携医療機関のDr 及び訪問看護師更に家族等と普段から話し合い全員で共有している。</p>	<p>重度化や終末期のケアについては、利用開始時に利用者や家族に「重度化・終末期対応について」によりホームの方針を説明して同意を得ている。重度化した時点で再度家族の希望を確認して、可能な限り希望に沿った支援ができるよう医師と連携した体制の構築に取り組んでおり、これまで4件の看取りを実施して家族に感謝されている。また、協力医療機関の医師を講師に、終末期のケアに伴う職員の不安の除去やスキルアップの研修を実施して効果がみられている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署の協力を得てホームでの研修や、外部研修に参加して初期対応の訓練を実施している。又、緊急連絡網も掲示しいつでも連絡が取れるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時対応策マニュアルを作成して周知徹底を図っている。消防署及び地域消防団長や地域住民の参加を得て、年2回避難訓練等も行っている。	消防署及び消防団・地域住民の参加を得て、年2回夜間を含む火災を想定した避難・通報・消火訓練を実施している。訓練後は消防署による災害に関する講話や消火器の取扱い等の研修を実施し、その振り返りも細かに記録している。また、職員の数人が救急救命士の資格を取得して事業所認定を受けている。地震や台風・火災それぞれの対応マニュアルの整備、災害に備えた各種の設備の設置や業者による点検並びに災害時の食料や飲料水の準備もなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他人と接することが苦手な人、口下手な人など無理強いせず、居室で過ごしてもらったり、スタッフの声かけで安心して生活できる様にしている。	利用者の誇りやプライバシーを損ねることのないように、人格や尊厳を大切に常に敬愛の気持ちを持って接し、丁寧な声かけやケアの実施を日々心がけている。トイレ誘導や入浴時の声かけの配慮はもとより、利用者が自己決定できるような語り掛けに努めている。マニュアルの整備や研修も充実しており、各種の個人記録の保管も適切である。情報紙への掲載については利用開始時に説明して同意を貰っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一つ一つの出来事に声かけし、御礼や、好みのおかずや食べ物など希望を聞いたり、行きたい所など聞きそれに応えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由に散歩や外出、フロアーでくつろぐなど、様々なスタイルが保てるよう各個人のペースを大事にしている。レクレーションの実施や歩行訓練・可動域訓練等を実施し筋力の維持に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	自分の意思表示ができる方は、衣類の更衣等の時は自分で選んで頂く。女性の方はマニキュアなどつけてもらったり、爪切り・髭剃り等出来ない方はスタッフが対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に好みの食べ物を聞いたり食事の手伝いや片づけなどお手伝いして頂いている。又、外食等も皆で参加している。	利用者の好みや栄養のバランス、疾病による摂取制限等に配慮して、ホームの菜園の野菜や差し入れの食材も活用しながら調理している。食事が楽しみなものになるように、季節感のある旬の食材や多くの行事食、弁当持参の花見やドライブ、家族との食事会、ウッドデッキでの昼食やお茶飲み、おやつを手作りするなど多くの工夫を行い、下ごしらえや下膳、食器洗い等は利用者も一緒に楽しみながら行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月カロリー計算を行い、目標量を摂取できるように努めている。水分摂取時はその都度記録し、必要に応じて補給して頂き、体調に応じて、おかゆや刻み・トロミ等個々に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の資格を持つスタッフを中心に、起床時のうがい、食事前のお茶でのうがい、食後の歯磨きうがい・義歯の清掃消毒など実施しかかりつけの歯科医との連携も取っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	おむつは使用していない。各個人の排せつ時間を記録し、時間を見計って声かけし、トイレ対応に努めている。夜間も同様時間で声かけしてトイレ誘導を実施している。	利用者個々の習慣や身体機能に応じた支援になるように排泄チェック表も活用して、不安や羞恥心に十分配慮した声掛けに努めながら可能な限りトイレで排泄できるように支援している。利用者の身体的変動に対しては、適切なケアになるように話し合いや介護用品の工夫を繰り返し、ケアプランにも反映させて改善に努めており、現在はおむつ使用及びポータブルトイレの利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や植物繊維食品を食事に取り入れたり、適度な運動を行ったり、処方された下剤などを用い排便コントロールに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の入浴時に個々のタイミングで声かけし、希望の時間帯に楽しんで入浴できる様支援している。	入浴は基本的には週3回であるが、失禁等には随時シャワー浴や清拭を行うなど衛生面にも留意しながら、温度や入浴時間など可能な限り好みの入浴を楽しんで頂いている。入浴を拒否される場合には無理強いしないで、言葉かけや介助者、時間帯の変更を行うなど、気持ち良く入浴して頂けるように工夫している。個浴で支援しておりボディチェックや皮膚疾患の治療をしながら職員と親しく会話を楽しむなど、利用者との親密なコミュニケーションを図る場にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各人の生活習慣を把握し、その日の状況で居室なり和室の畳での昼寝などゆっくりとして頂きながら、眠剤の必要な方は処方に従い安眠して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情報をファイルにし1回分づつ薬局にて分包して頂き、服薬確認症状の変化確認に努めている。又、薬剤師による服薬の基礎学習をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の掃除時に歩行可能な方は自分の居室の掃除をしていただいたり、花壇の手入れや草取りなどもして頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は、短時間ドライブなど実施したり、スタッフと共にスーパーにお買い物に行ったりしている。	利用者の健康状態や天候に配慮しながら、本人の希望に沿って、また、家族とも連携して日常的に散歩やドライブ・墓参り・買い物・一時帰宅・外食などに出かけて気分転換を図っている。また、年間外出計画にも組み込んで、季節毎の花見やミカン狩り、地域の行事への参加など、可能な限り楽しく外出できるように工夫しており、利用者の身体能力に沿ってリフト車や車いす等も適切に活用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ほとんどの方がお金は所持していない。必要に応じて使うときはホームで立て替えて使えるように支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>個々に応じて自由に電話出来る体制をとっている。ダイヤルしてから本人に手渡すなどしている。スタッフ協力のもと年賀状や暑中見舞い状を家族に出せるようにしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>四季折々に貼り絵・ひな飾り・かぶと・鯉のぼり等掲げたり、メニューなどにも取り入れ視覚・味覚で感じて頂いている。</p>	<p>建物は木材を基調とした落ち着いた雰囲気になっている。リビングの天井は高く天窓があり、明るくて広いスペースにテーブルセットやソファが適切な間隔で配置されている。広い畳部屋とウッドデッキも設置されており、随所に生花や花鉢、利用者の作品、写真、地域住民から届けられた手・工芸品等が飾られて、和やかで落ち着いた雰囲気の中で、利用者は好みの場所で自由に寛いでいる。共有部分全てが余裕ある構造になっており、清潔な環境を心掛け、清掃、空調、採光、防臭にも細かに配慮して居心地良く過ごせるよう努めている。また園庭も広く、多種の花木が植えられ菜園もあり、利用者は四季を感じながら散歩や日光浴、花見、野菜の手入れなどを楽しんでいる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホール内にソファを設置したり和室に畳の間を設けてあり入居者様同士自由に過ごされるようにしてある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に仏壇や位牌等、入居者様1人1人使い慣れた生活用品が持ち込まれている。	居室は明るく余裕があり、エアコン、ベッド、クローゼットが設置されている。利用者は、使い慣れた寝具やテレビ、時計、写真、花、小物等を持ち込んで、家庭同様に居心地の良い落ち着いた生活が営めるよう工夫されている。利用者の状態に応じてベッドの部屋を畳部屋に変えるなど、安全な動線を確保した支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすでも利用できるようにスペースを広くしている。又、歩行の不安定な方でもホール内や居室にも手すり等を設置し自立した生活ができるように工夫している。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない